

二〇一八年 新春に思う

皆様には新春のお喜びを申し上げます。とりわけ正月も休まず、現場を守っていただいた多くの社員の皆様には感謝の言葉しかありません。

昨年度（9月期）の当社の売り上げは初めて40億円の大台に上がりました。これも多くの皆様方の日々の努力の積み重ねであると思います。改めて感謝申し上げます。また当社を信頼して仕事を任せて頂いたお客様のおかげであります。

今、私たちの周りでは人手不足が深刻な問題となっております。これは少子高齢化による人口減、労働人口の減少の為です。特に新潟のような地方は、そこに社会減が加わっています。多くの人が東京などの、給料が良く、仕事も多い大都市に行ってしまうのです。企業にとっても市場が大きいほどビジネスチャンスも大きいと言えます。企業も地方を

去っています。そうするとそこで働く人も企業についていくしかありません。まさに自然減が社会減を生み、社会減が自然減を生むという悪循環に陥っているのです。新潟県の人口は毎年1万人以上減り、それが10年以上続いています。そういった情勢の中で当社の売上増は大きな事だと思えます。

経済が落ち込む場合、例えばその地域で10社があり、それぞれ100万円の売り上げがあるとしたら、10%経済が悪くなるとは、一律に90万円の売上になり、総額900万円になるわけではないのです。10社の内一番弱い1社がなくなり、総額900万円になるのです。

我々の経験の教えるところによれば、それはさらに極端化されています。それも広い意味でイノベーション（新結合）と言えます。イノベーションとは天から甘露が降り注ぐような穏やかな話ではな

いのです。また「イノベーション」を「技術革新」というのは訳としては誤っています。

たとえば明治時代、殖産興業で一気に生産性が向上して近代文明がもたらされたように見えます。しかしその陰では、旧来の産業、社会関係が引き臼ですり潰されるように潰されているのです。新しい社会は古い生産関係の廃棄によって生れます。その前段の維新の政治的混乱の中では、古い武士社会がすり潰され、西南戦争や萩の乱など維新を推進した側からも反乱の火の手が上がっています。生産要素の組み換えイノベーションには常に光と影があります。

さらに世界に目を転ずれば、グローバル化の問題があります。先の「爽」にも書きましたが、これにも光と影があります。国際分業をすれば格差は避

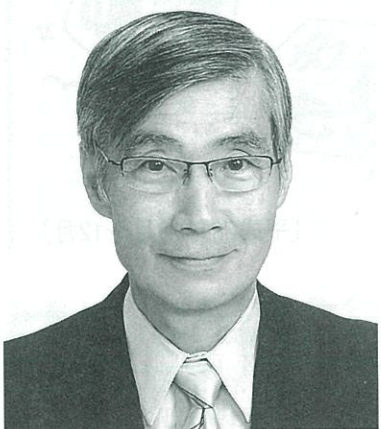
けられません。この格差は国内格差も国際格差もたります。水がしたたり落ちるのは上から下であって、すべて同時に湧き出すという事はないからです。しかし国を閉ざして国際市場に参加しなければ経済の発展は望めず、最低限の水さえ得られないでしょう。

つまりグローバルゼーションとは善でも悪でもないのです。また思想IIグローバルイズムでさえないと言っても良いでしょう。

世間ではグローバルとローカルの良いとこ取りをして「グローバル」などと言う人もいますが、語呂は良いですが、無責任な言葉の遊びに思えます。情報と交通の発達によって、世界が狭くなったという事なのです。

代表取締役社長

鈴木英介



さらに貨幣が通貨になり世界中を瞬時に飛び回っています。そのことにより巨大な「信用」が創造されたのです。黄金の呪縛からさえ解放された通貨は、すさまじい勢いで膨張しています。その結果、過去の経済学者の予言した「恐慌」は、その巨大な「信用」により阻止する事ができました。その代わりに生まれてきたのが「バブル」です。

製造するわけにも、出来上がったサービスを輸入するわけにもいきません。あくまでその地域にいる人がそのビルをメンテナンスしていくしかありません。その意味でビルがある限りビルメンテナンスはあります。しかし機械化にも限度がありますし、省力化にも限りがあります。そうであれば旧来のやり方にとらわれず、合理的に仕事を組み立てていく、少人数でできることも考えていかなければなりません。またメンテナンスフリーの素材や設備は益々増えてきます。従来人がやらざるを得ないと考えられてきた事も、機械に代替しなければならなくなるでしょう。

このグローバルゼーションが私たちの仕事にどう関係あるかと言うと、少子高齢化の日本で労働集約型の仕事は難しくなるという事なのです。もちろん私たちのビルメンテナンス業は典型的な労働集約型の産業です。労働力を国外から入れない限り、ビルメンテナンスは担い手不足になっていくでしょう。そして私たちの仕事はサービス業です。人のやるサービスですので、海外で

私は最近髪を洗わない床屋に行っています。バキュームで吸うのです。髭剃りもあります。そもそも最初から洗面台もないのです。髪などは風呂で洗えば良いのだし、髭も自分で毎朝剃っています。あえてプロに刺っってもらう必要は感じません。ここでは約10分で終わります。忙しいので私にはこの時間が一番ありがたいのです。しかも安い。私たちの仕事も、既成概念にとらわれず、もつとやり様を工夫できるのではと、新春にあたり考えています。